

# 「施策」総括票

施策展開	3-(5)-エ	科学技術を担う人づくり
施策	②科学技術と産業界を結ぶ人材の育成	209頁
対応する 主な課題	<p>○科学技術の力で世界をリードするためには、将来の研究活動を担う創造性豊かな優れた若手研究者を育成・確保し、世界で活躍できる環境づくりが重要である。</p> <p>○産業技術力を維持し持続的に発展していくためには、産業界等社会のニーズを踏まえつつ、その変化に対応できる人材が必要不可欠であるが、本県には、多様な分野に精通した幅広い知識と経験を有する専門家(コーディネーター)の数は少ない状況にある。</p>	
関係部等	企画部、商工労働部	

## I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
	主な取組	決算見込額	推進状況	活動概要
1	テクノロジー・リエゾン・フェロー研修派遣事業	2,159	順調	○研修生1人を東京大学産学連携本部へ派遣し、産学連携に関連した知識の習得、産業界や研究機関の視察などを行った。(1)
2	新産業創出人材育成事業	31,485	順調	○県内OJT(企業内教育訓練)を実施し、産学連携コーディネーターに必要な知識の習得や実務経験の蓄積、関係機関とのネットワーク化を図った。(2)

## II 成果指標の達成状況 (Do)

### (1) 成果指標

	成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
1	産学官連携コーディネーター育成人数(累計)	2人 (23年)	4人 (24年)	6人	2人	1,700人 (22年)
	状況説明	新産業創出人材育成事業において、県内学術機関及び県内金融機関へ人材を派遣することで、産学官連携コーディネーターを4人育成することができた。平成24年度に育成したコーディネーターの活動状況を把握・確認しながら、今後の育成事業の実施について検討し、目標値の達成を図る。				

(2)参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
-	-	-	-	-	-

III 内部要因の分析 (Check)

・テクノロジー・リエゾン・フェロー研修派遣事業については、平成24年度で研修者の派遣は終了したため、今後は研修終了者(4人)の習得したノウハウの活用強化を図る必要がある。  
 ・新産業創出人材育成事業については、県内産業の課題や支援策についての研修を設ける必要があったが、研修受入先のOIST(学校法人沖縄科学技術大学院大学)や研修生との調整が整わず、研修の内容に一部バランスを欠くところが生じた。

IV 外部環境の分析 (Check)

・新産業創出人材育成事業については、育成した人材を受け入れる機関等が少なく、研修成果の発揮は個人の技量に依るところが大きい。

V 施策の推進戦略案 (Action)

・テクノロジー・リエゾン・フェロー研修派遣事業については、同事業により構築した人的ネットワークを活用し、研修修了者による産学官連携に関する人材育成のための研修等の実施に向けて、調整を行う。  
 ・新産業創出人材育成事業については、平成24年度で研修者の派遣は終了したが、その成果を踏まえ、今後同様の事業を実施する際には、事業実施主体、研修受入機関、研修生の三者の調整の場を設け、研修内容について事前の調整を綿密に行う。  
 ・新産業創出人材育成事業については、OISTやその関係機関等で受入が決定している研修修了生には、研修で習得したスキルを活かせるよう各所で開催されるマッチングセミナー等を通じて関係機関等に研修修了生の活用についてPRする。また、受入が決定していない研修修了生には、定期的に連絡をとり活動について把握し、スキルを活かせる場を調査し、受入を支援する。